

一般社団法人日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第 40 回 リサイクル燃料貯蔵分科会 (F4SC) 議事録

1. 日時 2017 年 6 月 28 日 (水) 13 : 30~16 : 30
2. 場所 原燃輸送株式会社 大会議室
3. 出席者 (順不同, 敬称略)
(出席委員) 木倉 (主査), 浅見 (副主査), 白井 (幹事), 松本, 松岡, 大岩, 影山, 佐伯,
清水, 亘 (10 名)
(出席委員候補) 高橋 (1 名)
(欠席委員) 入江, 澤, 山根, 小佐古, 水谷 (5 名)
(常時参加者) 本田, 樋口, 下条, 広瀬, 蓬田, 工藤 (6 名)
(常時参加者候補) 村松, 山後 (2 名)
(欠席常時参加者) 菱田, 堂守, 石川, 大野 (4 名)
4. 配付資料
F4SC40-1 人事について (リサイクル燃料貯蔵分科会)
F4SC40-2 第 39 回リサイクル燃料貯蔵分科会議事録 (案)
F4SC40-3-1 標準委員会の活動状況
F4SC40-3-2 原子燃料サイクル専門部会活動状況
F4SC40-4 原子燃料サイクル専門部会 標準策定スケジュール
F4SC40-5 リサイクル燃料貯蔵分科会作業会 1 の人事について
F4SC40-6 リサイクル燃料貯蔵分科会作業会 1 の作業進捗状況報告について
F4SC40-7-1 使用済燃料中間貯蔵施設用金属キャスクの安全設計及び検査基準「附属書
M (参考) 金属ガスケットの漏えい率の設定例」の改定提案について
F4SC40-7-2 使用済燃料中間貯蔵施設用金属キャスクの安全設計及び検査基準「附属書
K (参考) 核データライブラリ及び解析コード」の改定提案について

参考資料

F4SC40-参考 1 標準委員会 専門部会運営通則他

5. 議事

幹事より, 開始時の出席者の確認が行われ, 決議に必要な委員総数の 2 / 3 以上の委員数を満足している旨の報告がなされた。

- (1) 分科会人事について
 - 幹事より、F4SC40-1に基づき、委員退任の報告及び常時参加者登録解除の報告がなされるとともに、委員選任の決議及び常時参加者登録の提案がなされ、原案どおり了承された。
- (2) 前回議事録確認
 - 前回議事録（案）として F4SC40-2 の確認が行われ、承認された。
- (3) 標準委員会、原子燃料サイクル専門分科会の活動状況について
 - 幹事より、F4SC40-3-1 及び F4SC40-3-2 に基づき報告がなされた。
 - 「誤記対応の強化」の動向、及び「標準委員会・用語辞典のコメント対応」の動向については、幹事より、標準課事務局に確認することとした。
- (4) 標準策定計画について
 - 幹事より、前回分科会で確認された、標準策定5カ年計画の変更内容について、原子燃料サイクル専門部会で承認された旨、F4SC40-4に基づき報告がなされた。
- (5) 作業会1の人事について
 - 作業会1主査の松本委員より、F4SC40-5に基づき、作業会1の常時参加者登録の報告がなされた。
- (6) 作業会1の活動状況について
 - 幹事より、作業会1の検討作業の全体像、及びこれまでの進捗状況について概略紹介がなされるとともに、作業会1主査の松本委員より、具体的な改定作業の進捗状況について、F4SC40-6に基づき報告がなされた。
 - 第37回分科会で報告された、標準改定に関するアンケート結果及び改定対応方針について、一覧表で説明し、対応方針として全てクローズ処理されていることの報告がなされた。
 - 引用文献の調査コメントについては、引用文献に係る修正が必要な箇所を洗い出し、一覧表でまとめるとともに、具体的な修正については、今後作成する改定案の中で附属書等の記載と合わせて審議いただくことが確認された。
 - 改定案審議のため、分科会を7回開催していただく計画であり、今回の分科会では、1回目として附属書M、Kが審議されることの紹介がなされた。
- (7) 金属キャスク標準の改定提案
 - ①附属書M（金属ガasketの漏えい率の設定例）の改定提案について

- 附属書Mについて、亘委員より F4SC40-7-1 に基づき改定提案がなされた。
- 議論の結果、附属書M、解説の表現については、コメントを受け見直しが必要であるものの、LMP 定数Cについて 20 で整理し、解説の中で、Cを 14 とする試験データがあること、また、今後新たな試験が進められようとしていることを補足的に記載する方向性が確認された。次回以降の分科会にて、コメントを反映して修正し、再確認することとした。
- 追加のコメントがあれば、二週間以内に幹事、亘委員、松本委員へ連絡することが確認された。
- 主なコメントは以下のとおり。
 - ・ 応力緩和／クリープの現象について、表現を丁寧に記載すべき。
 - ・ LMP の定数Cを決定する電中研と JNES の両者の考え方の違いをはっきりと解説に記載すべき。
 - ・ 解説の 1) では、ガasketの応力緩和は、ラーソンミラーで整理できるということを試験データを元に説明して、外被材により定数は変わるが、同じ式で構成されるという話を淡々と書けばよいのではないか。
 - ・ 「その他の解説事項」の記載については、附属書Mの解説でよいのではないか。→全体構成の中で、「その他の解説事項」の扱いについても整理して、分科会で提案していきたい。

②附属書K（核データライブラリ及び解析コード）の改定提案について

- 附属書Kについて、前回までの分科会の議論を踏まえ、松本委員より F4SC40-7-2 に基づき位置づけ変更等の提案がなされた。
- 議論の結果、序文、K.1 の記載ぶりについて、修正があるものの、修正の方針が確認され、本文及び附属書 K は、最終的な見直しに合わせ、別途分科会で提案し、審議することが確認された。
- 追加のコメントがあれば、二週間以内に幹事及び松本委員へ連絡することが確認された。
- 主なコメントは以下のとおり。
 - ・ 序文については、他の附属書の記載と横並びを確認し、「この附属書は、…標準の一部ではない」という表現にとどめ、K.1 に、キャスクの安全設計及び検査のために使用されるコードがある旨を例示する記載とすべき。
 - ・ 中間貯蔵施設を対象としていることから「輸送貯蔵兼用容器」のみでよいのではないか。また、「これらの関連する原子力設備・機器」という記載は不要ではないか。

(8) その他

次回分科会予定

2017年9月22日(金) 14:00～ 場所：調整中

以上